

平成 25 年 4 月 9 日

各 位

上場会社名 株式会社 エヌ・ピー・シー
代表者 代表取締役社長 伊藤 雅文
(コード番号 6255)
問合せ先責任者 取締役副社長 佐藤 寿
(TEL 03-5615-5069)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 24 年 10 月 10 日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

業績予想の修正について

平成 25 年 8 月期通期連結業績予想数値の修正(平成 24 年 9 月 1 日～平成 25 年 8 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	10,493	147	92	274	12.45
今回修正予想(B)	8,220	△533	△212	4	0.19
増減額(B-A)	△2,273	△680	△304	△270	
増減率(%)	△21.7	-	-	△98.5	
(ご参考)前期実績 (平成 24 年 8 月期)	9,446	△945	△1,194	△1,806	△90.79

平成 25 年 8 月期通期個別業績予想数値の修正(平成 24 年 9 月 1 日～平成 25 年 8 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	9,116	236	223	420	19.07
今回修正予想(B)	7,000	△318	41	258	11.72
増減額(B-A)	△2,116	△554	△182	△162	
増減率(%)	△23.2	-	△81.6	△38.6	
(ご参考)前期実績 (平成 22 年 8 月期)	8,138	△454	△635	△1,542	△77.56

修正の理由

平成 25 年 8 月期通期の連結業績予想修正の理由は、以下のとおりであります。

当社グループが属する太陽電池業界におきましては、太陽電池メーカーの技術力やコスト競争力の格差に起因する統廃合が継続しました。また、大手太陽電池メーカーを中心に、太陽電池市場の再拡大に備えた投資意欲は見られたものの、中国メーカーのモジュール在庫の消化が想定よりも遅れたことや、長かった市場低迷の影響により、太陽電池メーカーは新規設備投資に慎重な姿勢を維持したため、当社グループの本格的な装置受注の回復には至りませんでした。

一方、期初の段階で業績予想の数値にほとんど織り込んでいなかった今期の重点事業（レーザー検査装置、太陽電池モジュール受託加工、自動化装置）への引き合いが好調だったため、上述の太陽電池製造装置需要の回復の遅れをカバーし、今期の業績に寄与することが可能であると判断しておりました。実際に、平成 25 年 2 月には国内太陽電池メーカーと太陽電池モジュール受託加工の長期的な契約を締結することができました。

しかしながら、上述の重点 3 事業は、いずれも新規ビジネスであることから慎重に立ち上げてきたため、これらが業績に本格的に貢献するのは来期以降となる見込みとなりました。

それらの要因により、平成 25 年 8 月期の連結業績につきましては、売上高は前回発表予想より 2,273 百万円減少し、8,220 百万円となる見込みであります。一方で、利益面では、前期に実施した経営の合理化策により経費を削減できていることや、工場の稼働率が上昇し、原価削減が進んだことにより、売上総利益率については概ね当初の予定通り進捗する見込みであります。しかしながら、売上高の減少に伴い、営業損益は 533 百万円の営業損失（前回発表予想は 147 百万円の営業利益）となる見込みであります。経常損益につきましては、為替が円安傾向にあることで第 2 四半期までに 335 百万円の為替差益が発生しており、今回の通期業績予想修正においても、同額の為替差益を見込むため、損失幅が縮小し、212 百万円の経常損失（前回発表予想は 92 百万円の経常利益）となる見込みであります。

当期純利益につきましては、特別利益を計上することで、4 百万円の当期純利益（前回発表より 270 百万円の減少）となる見込みであります。

なお、個別業績予想の修正の理由につきましては、連結業績予想の修正と同一であります。

（注）上記予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成しております。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以上